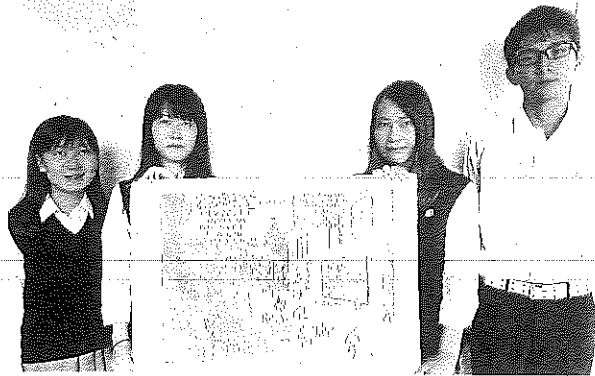


大牟田駅前巨大黒板

有明高専生あすのイベントで設置

観光客自由に書き込んで



JR大牟田駅前でのイベントをPRする有明高専の学生たち

は「観光客へのPRになれば」と期待している。

夏休みの課題研究の一環、電車で大牟田を訪れた観光客らが、駅にあまり滞在することなくバスに乗り込むことが多いことから、

「観光客に足を止めてもらい、大牟田をもっと知ってもらおう」と企画した。

巨大な黒板は縦約3メートル、横約4メートルで、一部には学生たちが市内の飲食店などを紹介。そのほかのスペースは、文化施設などのお勧めスポットや、訪れた観光地の感想などを落書き感覚で自由に記載してもらう。

このほか、「おおむた大蛇山まつり」などを題材にした顔はめパネルも用意。撮影した写真を会員制交流サイト(SNS)などで広

駅前が学校の教室に「場」を提供するイベントを有明高専(大牟田市)建築学科3年の学生9人が22日、JR大牟田駅前手作り黒板には大牟田のお勧めの巨大な黒板を設置「駅前に訪れた証しを残せること」にしており、学生たち

めてもらうという。学生代表の水元ひろえさん(17)は

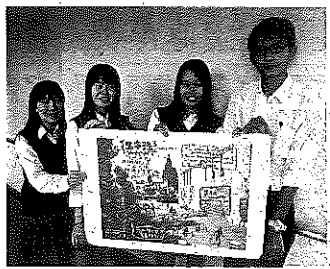
「大牟田の玄関口である大牟田駅から、全国に大牟田のいいところを発信できれば」と話している。

イベント終了後、黒板は駅前の大牟田観光プラザ内に常設される予定。

(古川泉)

大牟田に「証」つけよう 有明高専3年生企画 あす駅前活性化イベント

JR大牟田駅前を賑やかにしよう、有明高専建



建築学科三年生有志九人が、二十一日午前十時から、JR大牟田駅東口の観光プラザ西側の通路でイベント「エキカツ」を開催する。午後三時ごろまで、イベントでは縦三メートル横四メートルの黒板を設置。「大牟田のおススメ」を記入してもらおうなどの備しを準備している。

イベントは有明高専建築学科三年生の水元ひろえさんら九人が夏休みの課題研究「エキマエ・オオムタデザインワークショップ2016」みんなの居場所」に取り組み、JR大牟田駅東口の駅前空間を魅力的にするため、市や観光協会に提案。

そこで二十一日（秋分の日）の祝日、実験的にイベントを開催、駅前を盛り上げる。

水元さんから学生が駅の利用者を観察し、荒尾市の遊園地グリーンランドへ行くためにバス乗り場に並んでいる大学生など若い人たちが多いことに着目。

「せっかくだから大牟田駅を使ってグリーンランドへ行くのなら、少しでも大牟田をSNS（インターネット）の会員制交流サイトで発信してもらおう」とイベントを企画した。

会場では、黒板に大牟田の魅力などを記入してもらうほか、宅降中学校の協力で生徒用の机やイスを借り、会場に配置。

またSNSに発信してもらおうように、例えば大蛇山をモデルにしたフォトパネルなどを多数設置する予定。

ほかにも駅周辺の立体模型を設置、人形に色付けしてもらい模型に配置してもらおう備しも準備

二十日に記者会見した水元さんは「休日、遊園地へ向かう人たちに着目、少しでも駅前に証を残してもらおうと企画しました。例えば黒板に大牟田でおススメの飲食店を書いてもらい、市内外の人が味わってもらおう、大牟田特に駅前の活性化につながれば」と話した。

社説

2016 9 21

九州産業大学の学力を生かす「柳川サテライト大学」が開かれたが、定員の50人を下回る参加者だった。九州産業大学と柳川市が主催し、市内観光従事者や関係者などに参加を呼び掛けたもので、これからの観光都市柳川に生かせる内容という、せっかくの機会であったことから、もっと多くの人たちが受講するよう促すべきであろう。

柳川市は昨年6月に九州産業大学と観光に特化した連携協定を締結。その中で、同大学の教授たちが柳川市を訪れ、講座を開催するのだ。つまり、大学が地域への貢献のため、地域で出前講座を講義するのである。他市でも大学との連携協定締結は見られるが、観光が主産業の

観光都市柳川の振興を

もっと大学の知識生かして

柳川市は観光面の振興を図るため、大学の協力を求めたのだ。柳川サテライト大学は2回開催。第一回は商学部観光産業学科の教授が講師。この教授は柳川市観光まちづくり推進委員も務め、柳川観光の事情に詳しい。その他に熊本観光協議会委員、福岡観光コンベンションビューロー評議員でもあり、九州の観光の知識は豊富。

この教授は柳川市での講座で、「柳川は知名度が高い。観光振興で頑張っている」と評価。その上で、観光入込客数を年間約136万人、一番多いのが川

下りの利用客で約40万人、次に御花や北原白秋生家・記念館と実情を述べた。観光客の年間消費額は約60億円。1人当たりは4400円くらい。ピーク時は53000円くらいだったことから、10000円ほど落着いているので、宿泊客を増やすことを課題に挙げた。

「日本と九州観光の今」では日本を訪れる観光客で、九州は全国の1割。船を利用してやってくるクルーズ客が大きく伸びていることなど指摘され、九州のメインターゲットは韓国、台湾、中国、香港、タイと紹介。

柳川の人たちには「DMO（観光地経営）の視点に立った観光地域づくりが必要と説き、その例として、増えている中国からの観光客を挙げた。巨大なマーケットである中国は国土が大きく、地域によって旅行するところが違うという、マーケティングの必要性を訴えた。つまり、観光戦略をきちんとすべきというのだ。

柳川市は観光面でもさまざまな取り組みに着手しており、課題となっている宿泊客増加にも対応している。海外からは最も多い台湾からの客に対して、やさしい日本語での対応も打ち出した。しかし、また改善の余地がある。できるだけ大学の知識も生かしてほしい。



柳川市の寺院が地域活性化イベントとして「おてら座」を開催した。北海道から歌の旅一座を呼び、「昭和ノスタルジアコンサート」と題して昭和の流行歌が次々と披露され、会場は大いに盛り上がった▼「おてら座」は熊本地震復興支援の実施。この日は激しい雨が降り、開催が不安視されたが、入場者は120人と盛況だった。だから身動きができないほど人で埋まっていた。寺の駐車場は満車だったが、周囲の道路に止めている人もなく、来場者のマナーも良かった▼コンサートを行った北海道歌旅座は、北海道全ての市町村に音楽の翼を広げ、手渡しすることを志して2009年に札幌市で旗揚げ。いつしか、海峡を越えて日本全国の街から街へ出掛けるようになっていった▼つまりニッポン全国市町村公演を実施している▼このメインシンガーはアジア13カ国の歌手が集結したタイ国王・在位63周年記念コンサートに日本代表として参加して、絶賛を浴びた実績がある。コーラスや伴奏・踊りを担当したのが鮮に名前が由来するサ・サーモンズ▼コンサートは約2時間あった。昭和に生まれ、育った年代には懐かしいものばかり。多くの曲が歌われたが、「愛の奇跡」「ハチのムサシは死んだのさ」「恋の季節」などアップテンポで会場の人々もハイテンションに▼平成になり、28年。昭和は遠くなりつつある。しかし、高齢化社会に突入し、昭和でも戦後世代はまだまだ、現役の人が多い。子どもの頃や若かった当時流行した曲を聞くことが出てくるものだ。

柳川市は観光面でもさまざまな取り組みに着手しており、課題となっている宿泊客増加にも対応している。海外からは最も多い台湾からの客に対して、やさしい日本語での対応も打ち出した。しかし、また改善の余地がある。できるだけ大学の知識も生かしてほしい。



トリアスで提供される「とり若」の唐揚げ

大牟田の味広めたい

九州から 選ばれ とり若が肉フェス出店

公開生放送も

大牟田市橋口町の唐揚げ店「とり若」は24日、糟屋郡久山町出店のトリアス久山で開かれる肉フェスに出店する。九州の美味しい唐揚げ店4店のうちの1つに選ばれたもので、市外のフェスに出店するのは初めて。頭張って大牟田の味を広めたい」と意欲を燃やしている。

とり若は、林貴大代表（51）が弟の智広さん（50）と共に経営。友人の実家が同市龍洞町で唐揚げ店を経営していたつながりから、基本の味を伝授してもらって開業し、8年目である。

使用している肉は全て朝ひきの若鶏。基本の「ニンニクなし」から始まって、「スパイスカーリック」「塩」など次第にメニューを増やしていき、今ではさまざまな種類の弁当も販売。昨年7月に三浦炭鉱関連施設が世界遺産登録されたことを記念し、黒い「石炭」からあげ「もメニュー」を加えた。

今回参加するのはFM福岡と「radioアイディア」による公開生放送「ナカジーの肉まつりだす！全員集合！」の関連イベント。ブルメフェス 肉まつり」で盛り上がるトリアス久山特設会場から「なかに」こと中島浩志さんが公開生放送し、さらに早いもん勝ち！400人で、から揚げいったたきまーすー」と題して、唐揚げの大試食会を実施。中島さんとFM福岡おすすめの4店

による公開生放送「ナカジーの肉まつりだす！全員集合！」の関連イベント。ブルメフェス 肉まつり」で盛り上がるトリアス久山特設会場から「なかに」こと中島浩志さんが公開生放送し、さらに早いもん勝ち！400人で、から揚げいったたきまーすー」と題して、唐揚げの大試食会を実施。中島さんとFM福岡おすすめの4店

による唐揚げを400人に無料で配布するもので、とり若は特選九州しょうゆの風味を生かした「濃い味」（骨なし）で挑む。

試食会は当日午前11時からトリアス内のキッズガーデン特設会場へ配布。イベントの模様は正午から55分間、FM福岡で午後1時から同3時まで「radio」で生放送される。（河野美穂）